

1011. Lattice ordered ring, 可換性 =
ツイテ

小笠原 藤次郎 (廣文理文)

實數体ヲ作用圖トスル "ring lattice"⁽¹⁾ カラコノ作
用圖存在ノ假定ヲ取除イケモ、lattice ordered ring

(1) 小笠原 藤次郎 "ring lattice = ツイテ" (紙上數學談話會)

以下 "ring lattice" トシテ引用。

ト呼バコトニスル。(丁度 *vector lattice* ト *lattice ordered group* トノ関係ニ於テ見ラレル様ニ)。Archimedean
ノ場合ニ可換環トナルコトヲ証明スルノガ目的デアール。先ヅ我
々ノ「表現論」⁽²⁾ハ実数体ヲナク有理数体ヲ作用圏トシル場
合ニモ成立スルコトヲ注意スル。コレハ我々ノ方法ノ本質的
ト部分即チ *characteristic family* ヲ用フル際ニ有理
数ニ對スルモノノミヲ考ヘレバヨイコトカラナル。§1 デハ
lattice ordered abelian group ハ皆ニ有理数体
ヲ作用圏トスルモノニ拡大サレル。従ツテ連続函数ニヨル表
現ノ問題解決ガ可能トナルコト。§2 デハ *lattice ordered*
ring ノ定義及ビ茲ニ於テ、目的デアール可換性ノ証明ヲ
ベル。

§1. L ヲ a, b ヲ要素トスル *lattice ordered*
abelian group トスル。 m, n, p, q, \dots ヲ自然数
トシ $(\frac{1}{n}, a)$ トル自然数ト L ノ要素ヨリナル對シ全体ヲ L^*
ヲ表シ $nb = ma$, トキ $(\frac{1}{n}, a)$ ト $(\frac{1}{m}, b)$ ヲ恒等視シ和
及ビ正要素ヲ次ノ様ニ定義シテ *lattice ordered group*
ニスル。先ヅ上ノ恒等ノ定義ガ對等関係ニ基クコトハ *lattice*
ordered group = 於テ常ニ $n(a \vee b) = na \vee nb$, 成
立スルコトカラナル。

$$(\frac{1}{n}, a) + (\frac{1}{m}, b) = (\frac{1}{nm}, nb + ma) \text{ ト置リ。コレ} =$$

(2) 前田文友, 小笠原龍次郎 "vector lattice, 表現" (紙上
数学談話會) 以下「表現論」トシテ引用。

$\exists \gamma \neq \text{abel 群 } \tau + \gamma - (\frac{1}{n}, a) = (\frac{1}{n}, -a) \tau + \gamma$.
 $\frac{q}{p}(\frac{1}{n}, a) = (\frac{1}{np}, qa)$ | オクコト = 依ッテ有理数体ヲ作用圖トスル abel 群トナル. 決 = $a \geq 0$, トキ $(\frac{1}{n}, a) \geq 0$ ト定ナルコト = ヨリ lattice ordered group トナル.
 $a = (1, a)$ ヲ對應サセルコト = コツテ L, L^* ノ内 = 埋藏サレルコト且ツコノ過程 = ヨツテ次ノ様ナ L ノ性質ハ保存サレル: 無制限ナ join, meet; lattice 論的單位; Archimedes, 公理等. 今依 $(\frac{1}{n}, a)$, 代リ = $\frac{1}{n}a$ ト書クコト = スル. コノコトカラ次ノ事がワカル.

(i) lattice 單位 e が存在シテ 各要素が e = 関シテ有限ノトキハ e = 関レテ無限小要素, 全体ハ群ヲ作リコレニヨル L ノ差群ハ Archimedean lattice ordered group トナル.

(ii) L が Archimedean, 場合ハ L , normal ideal, 全体ハ complete Boolean algebra ヲ作リツノ表現 Boolean space ヲ考へルヲバ L ハ γ ノ空間, 連続函數ヲ表現サレル. 特 = lattice 單位 e ヲ有スル場合 = ハ e が恒等的 = / トナル如クスルコトが出来ル. 之等ノ考へ方カラ lattice ordered group ノ表現 = 關スル Stone ノ定理 (Proc. Nat. Acad. Sc. 27(1941)) 及ヒツノ拡張が得ラレル.

§2. 環單位 e ヲモツ次ノ諸條件ヲ満足スル環ヲ lattice ordered ring トイフ.

(1) Archimedean lattice ordered group

である。

(2) 環単位 e の lattice 論的単位である。

(3) $a, b > 0$ とき $ab \geq 0$

これによって次の定理が成立する。

定理 *lattice ordered ring* の常 = 可換環である。
且積、単独的 = 定まる。

(証) R の問題、環として §1 の方法 = によって有理数体 \mathbb{Q} の作用圏とする *Archimedean lattice ordered ring* = する。これ = $(\frac{1}{n}, a)(\frac{1}{m}, b) = (\frac{1}{nm}, ab)$ と定まることを注意すれば分る。恐ろ。

次 = これを実数体 \mathbb{R} の作用圏とする = 拡大する。(この拡大の方法も周知のこと = 恐ろから述べない) 斯くの如くして R の "ring lattice" = 埋藏されることが可能となる。この最後、"ring lattice" の常 = 可換であることは既 = 証明した。定理の後半、表現 Boole 空間、連続函数、積 = 表現されることから分る。

定理 *lattice ordered ring* の 単独的 = 定まる *bicompact* 空間、連続函数 = によって表現される和 = 和、積 = 積が定義される。

(証) 前定理の最後、部分、注意から。

次 = 各要素が e = 関して有界のとき、環、積、結合則の仮定は (1), (2), (3) の性質から結果する。この "ring lattice" の証明から分る。一般の場合 = 之れ以上、仮定を置かす = 同様、ことが成立するモノト考へられ

ルが未だ証明が出来ない。(尤も應用 = 降々表ハレル regular / 場合 = ハソノ成立が分ルカラ ("ring lattice" / 証明カラ) 不自由ハタイト思フガ)。

(訂正) 小笠原藤次郎 "Boolean space = ツイテ"
(紙上数学談話會), 「定理、無制限 = L , join, meet
ヲ保存スルヤウナ L ヲ含ム最小 complete vector
lattice \bar{L} が存在スル。 \bar{L} ハ何レモ $\bar{L} = \text{linear-}$
lattice-isomorphic ナール」 / 証明 = 於テ \bar{L} / 説
明中 " $L = \text{ヨツテ majorize サレル要素, 全体}$ " ハ
" L / 要素, 切断トシテ表サレル要素, 全体 " = 改メル。
尚コノ定理ハ Clifford / (Annals of Math) 定理ヲ
ニ對應スルモノナルコトが分ツタ。